



ルスカ氏の熱血指導に選手たちも感激いっぱい

赤鬼・ルスカ氏柔道 熱血指導

「オランダの赤鬼」が県高校選手らを熱血指導——。

ミュンヘン五輪(1972年)柔道で史上初の二階級(無差別、重量級)制覇を成し遂げたウイリム・ルスカ氏(五才が十四日、前橋育英道場を訪れ、育英、前橋商、県警柔道部員ら約七十人を指導した。ルスカ氏は十三日に行われた第31回関口杯支部対抗柔道大会に招待されたもので、元世界チャンプの直接指導にジュニア選手らは感激していた。

みっちり2時間

親日家ルスカ氏らしい、熱血指導だった。柔道着は一年半ぶりという元世界王

激感生講受ら商前英育

者は「道着を着れば、自然に体は動く」と言い、現役当時と全く変わらない軽快な動きを披露。力学にかなった打ち込み、技、崩しなど基本に忠実に、丁寧に約二時間の熱血指導。この機会を一番楽しみにしていた」と言いつつ汗びっしょりになりながら、実に楽しそうだった。

ミュンヘン五輪後、プロレスに転じたルスカ氏だが、柔道人としての訪日は二十六年ぶり。「選手が自分の体力を生

かした柔道を知らないのに驚いた」と素直な感想を述べた後、「私は常に喜んで練習した。積極的に、楽しく柔道ができなければ、私のように世界チャンピオンにはなれない」と自らの体験談を話す。

相手のバランスを崩しての体落としに「ペリー・グッド」とルスカ氏に褒められた齋藤隆広(前橋育英三年)は「世界チャンプに褒められたのは初めて。自信になりました」。新井禮次郎県連盟理事長も「重量級ながら、体重や腕力任せの柔道ではない。言っていることは当然のことだから、これを今後に生かしてくれ

れば……」とルスカ効果に期待を膨らませる。

(福王寺志ず江)

闘争心高めなければ
○…数年前に行われた異種格闘技のアントニオ猪木戦など、プロレスラー・ルスカの印象が強いようだが、今回の来県はあくまでも柔道人としてのもの。関口杯支部対抗大会にも、当時ともに戦った篠巻政利氏(1969、1971年世界選手権制覇)も来県。旧交を温めた。現在の日本柔道界へ「軽量、重量がともにファイティングスピリットを高める練習をしなくてはダメ」とルスカ氏は奮鐘を鳴らした。